

問題だらけのごみ有料化
来年4月から実施

市議 三宅まり

ごみ有料化の補正予算案が通って、ついに実施が決まりました。他の施策を失敗した果てに導入する有料化。神奈川県ネットを含め11人が反対しましたが、賛成13退席1の僅差で可決しました。

2015年4月から、市民は市指定のごみ袋を購入し、ごみを出すこととなります。市民が支払うごみ袋代は、1年間で3億5000万円です。ごみ袋の作成費として約1億円かかり、2000トのごみ減量のため、市民の負担が4億5000万円増えることとなります。市の収入となるごみ袋の売却益の使途についても明確な答弁は得られず、市長は「毎年の予算で示す」の一点張りで、説明責任を果たしていません。

また、戸別収集モデル事業も問題です。2012年から3地域で実施しながら、市民の理解

が得られていないとの理由で戸別収集の全市実施を先送りしました。しかし、戸別収集を有料化とセットで実施する際の検証のためとして、2015年度もモデル事業を続ける方針を示しています。戸別収集全市実施の経費見積りは、14億円とも22億円とも言われ、年間3700ト程度の減量にかける経費としては財政負担が大きすぎます。検証をするまでもなく、今後も市民の理解が得られるとは考えられず、モデル実施にかかる年間5400万円は無駄になっています。

さらに、新焼却炉を見据えた

有料化でなければなりません。6月議会で4候補地が示されたものの、あまりに唐突な報告でした。対象地域では反対運動が起き、理解が得られていま

2013年度決算認定に反対

生活保護窓口で水際作戦

厚生労働省は、生活保護受給世帯が全国で160万4414世帯(6月)となり、過去最多と発表しました。神奈川県においても、7月集計では11万5228世帯で、昨年同月より5457世帯増加し、10年前の1.8倍になっています。

一方、鎌倉市の場合は、10年前の1.3倍程度で、一貫して微増傾向です。就学援助金の認定者及び支給額は1.9倍に跳ね上がっていることからすると、不自然な数字です。さらに、相談数に至っては5年前から年々激減しているという現状です。



せん。有料化実施により、ごみ問題は解決に向かうどころか、ますます混迷の度を深めています。

鎌倉市の生活保護の窓口は、2012年4月から2年間にわたり封鎖状態でした。相談に来た市民があきらめて帰った可能性は否定できません。加えて、もっと根本的なところに問題がありました。生活保護受給者の8割は、何らかの医療を受けている状態であり、県の資料でも、保護の開始理由で最多なのは「疾病」です。相談者の健康状態が良好でない場合、

決算委員会で指摘したところ、担当課長は不適切な対応を認め、部長は改善を約束しました。生活保護は、基本的人権である生存権を保障するための「最後の砦」です。相談者に寄り添った対応が求められます。

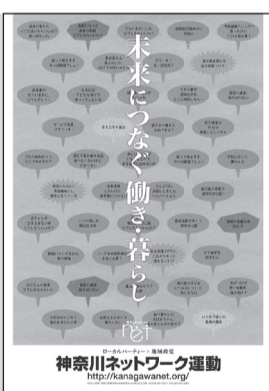
その他、無駄の多い戸別収集モデル事業、災害時要援護者対策の遅れ、省エネ施策の遅滞、不透明な業務委託、就労困難な若者支援の遅れ等を指摘し、2013年度決算認定に反対しました。

帰宅困難者対応訓練に参加

10月8日に大船駅で行われた訓練にネットメンバーが参加。昨年度に続き2度目で、地域と事業者、行政の連携には欠かせない訓練です。

駅から受け入れ施設の鎌倉芸術館まで、災害時に通行が困難になる箇所などを確認しながら歩きました。

《会費・カンパ振込先》
郵便振替口座番号:00200-0-18713
口座名 ネットワーク鎌倉
Tel.0467-42-8636



◆ポスター掲示場所を募集!

神奈川県ネットポスターが完成!
大きさはA2版
家の扉などに掲示していただける方はご連絡下さい

みどりショップ、目的を果たして閉店
—15年間で3000万円の寄付—

みどりショップの会代表 前田陽子

御成町の一角で15年に渡り市民トラスト等を応援するリサイクルショップとして活動してきたみどりショップは、今年5月をもって閉店しました。三大緑地の保全をめざす市民の意思を示すために、ネット鎌倉が生み出した市民事業でした。多くの方々に品物を提供していただき、買っていただくことで、トラスト団体への寄付と交流を続けてきました。また、多くのボランティアスタッフが活動を支えました。その中で、広町と台峯の保全の決定は、本当に嬉しいニュースでした。しかし、店舗の老朽化が目立ち始め、広町・台峯の保全という所期の目的を達成できたこと、さらには支援先の各団体がそれぞれの活動を元気に展開されていることをもって、会の役割は果たすと判断し、解散を決定するに至りました。

15年間で、30,219,428円を鎌倉の緑地保全のために寄付することができました。この数字は鎌倉の市民の力を示すものと私たちは誇りに思います。今後も、緑を守る活動に市民として関わっていきます。



編集後記

台風18号では市内各地で水が溢れ、床上浸水も生じた。時間雨量50mmだったと言うが、雨水管の限度を超える内水氾濫だ。浸水地域は内水ハザードマップとほぼ一致していた。被害を小さくするためには、市民もハザードマップを活用し、早めの対策をすることが大切だ。(C.M)